

小施策評価シート (平成 28 年度実績評価)

施策コード	29	施策名	都市間交流の促進	
小施策コード	29-1	小施策名	都市間交流の促進	
小施策 主管課等コード	123000	小施策 主管課等名	企画調整課	
評価責任者名	小川 秀樹		内線番号	3810
評価シート作成者名	藤澤 法輝		内線番号	3811

Step 1 施策目標の達成状況

まちづくり指標	目指す 方向	単位	25年度 実績 (当初値)	27年度 実績	28年度 実績	31年度 目標値	36年度 目標値
都市間交流を促進するための 協定等の締結数	↑	件	4	4	4	4	5
みちのく盛岡広域連携都市圏 ビジョン事業数*	↑	件	—	47	47	47	64

(↑：数値を上げていくことを目標とする指標， ↓：数値を下げていくことを目標とする指標， →：数値を維持することを目標とする指標)

* 28年度に「にぎわいや産業振興につながる自治体連携の取組数」から「みちのく盛岡広域連携都市圏ビジョン事業数」に変更している。

Step 2 小施策の全体像

小施策の概要等（構成事業は別紙ロジックモデルシートのとおり）

対象（誰（何）を対象として行うのか）	意図（対象をどのようにしたいのか）
連携市町村	都市間の連携した取組が活発になる。
市民	市民の生活文化の質の向上やまちのにぎわいにつながる。
現状と課題	<p>経済・文化・歴史などの異なる都市や地域の人々との交流は、人々の生活の質の向上とともに、経済文化活動の活性化など、まちのにぎわいの創出にもつながることから、さまざまな都市との市民交流を促進していくことが必要である。</p> <p>本市では、昭和59年に南部氏のゆかりの深い自治体により南部首長会議を発足するとともに、平成24年には沖縄県うるま市と友好都市提携の締結や東京都文京区と地域文化交流に関する協定の締結を行っており、それぞれ市民交流が広がっている。</p> <p>本市では、これ以外のさまざまな都市や地域との市民交流も幅広く行われており、その広がりや深まりを促進していくことが求められている。</p>
取組の方向性	市民の生活の質の向上やまちのにぎわいや魅力向上に資するため、友好都市等や経済・文化・歴史などの背景の異なるさまざまな都市・地域の人々との交流を促進する。

Step 3 小施策指標の推移

小施策の指標	目指す方向	単位	25年度実績 (当初値)	27年度実績	28年度実績	31年度目標値	36年度目標値
都市間交流を促進するための協定等の締結数	↑	件	4	4	4	4	5

（↑：数値を上げていくことを目標とする指標， ↓：数値を下げていくことを目標とする指標， →：数値を維持することを目標とする指標）

Step 4 市民ニーズの把握

盛岡市まちづくり評価アンケート結果によると、「都市間の交流が盛んになり、まちのにぎわいを生む取組み」については、11.4%の市民が満足している一方で、53.0%の市民が「今後の取組が重要」としている。

Step 5 役割分担分析

1 各主体の役割の状況

		役割の内容	役割分担比率 (%)
各主体の 役割の状況	市	都市間の友好都市協定などの締結は、盛岡市が中心的な役割を担うこととしている。	50
	国・県・ 他自治体	友好関係を築くためには、自治体間の協力が必要である。	10
	市民・ NPO	都市間の友好関係を築くためには、市民の理解と協力をなくしては成り立たず、交流の主役である。	20
	企業・ その他	都市間交流には、産業・観光分野の相互協力が必要である。	20

2 今後の市の役割の比重の方向性とその理由

- 市の役割の比重を拡大していくことを検討する
- 現状維持（現在の市の役割の比重を維持する）
- 市の役割の比重を縮小していくことを検討する

（理由）

都市間交流においては、市が中心的な役割を担うこととしているが、市民交流も幅広く行われており、その広がりや深まりを促進していくことが重要であることから、現状維持とするもの。

Step 6 前年度に分析した課題・改革改善案に対するアクション

1 平成28年度に分析した問題点・課題に対する改革改善案

市民レベルの交流を促進するため、「いわて・盛岡デー・イン・沖縄」や「ちゅらしま大沖縄展」などを通じ、両市民がお互いの文化や特産品を知る機会を増やす。

行政レベルでの交流推進を図るため、函館市への本市職員の派遣など、積極的に情報収集などに努める。

「北海道函館市との交流促進」において、函館グルメサーカスへの出展規模を拡大し、函館での本市の物産販売などを強化するほか、学習旅行の誘致に努めるなど、本市の知名度の向上を図るとともに、本市の積極的な売り込みを進める。

2 1の改革改善案の実施状況

(A：着手済, B：平成29年度に着手(予定含む), C：未着手または見送り)

改革改善案	具体的な取組(予定)内容	状況
両市民がお互いの文化や特産品を知る機会を増やす。	「いわて・盛岡デー・イン・沖縄」や盛岡デーをきっかけとするなど、文化や経済分野を中心に交流を進めている。	A
積極的に情報収集などに努める。	函館市や文京区などに対し、積極的に働きかけし、文京区長の来盛、さんさ踊りへの参加を実現した。	A
本市の積極的な売り込みを進める。	函館グルメサーカスへの参加や盛岡デーの開催などのほか、教育旅行誘致など本市の積極的な売り込みを図っている。	A

3 2で挙げた取組状況がCの場合、その原因

Step 7 成果・問題点の把握

1 成果の把握と要因分析及び課題の設定

(1) 小施策の中で成果をあげた点

- ・ 沖縄県うるま市と本市の文化、経済面での交流が図られ、相互理解の促進につながった。
- ・ 平成・南部藩交流事業において、交流市町間の交流が行われた。
- ・ 東京都文京区との交流が促進され、文京区長の来盛や「地域おこし協力隊」の着任につながった。

(2) 成果をあげた要因

- ・ 「いわて・盛岡デー・イン・沖縄」では、盛岡の物産販売を行い、また、「ちゅらしま大沖縄展」では、うるま市を中心とした沖縄の物産の販売を行ったことから、両市民が物産の購入などを通じて、お互いの文化に触れる機会となった。
- ・ 盛岡市長、青森県南部町長、山梨県身延町長が、一日国替えとして相互に訪問、交流を行った。
- ・ さんさ踊りへの招待や地域おこし協力隊の募集など、機会をとらえ文京区と情報交換や協力依頼をするなど、両市の交流促進を図った。

(3) さらなる成果向上に向けた課題(課題がある場合に記載)

- ・ 市民レベルでの交流がさらに促進されること。
- ・ うるま市や文京区、南部氏ゆかりの都市、また、その他の都市と様々な面で交流が促進され、にぎわいにつながること。

2 問題点の把握と原因分析及び課題の設定

(1) 小施策における現状の問題点

- ・ 市民レベルでの交流が活発とまで言えないこと。
- ・ 都市間交流がまちのにぎわいにつながるまで効果が現れていないこと。

(2) 現状の問題点が生じている原因

- ・ 交流の機会が不足していること。
- ・ 都市間交流の機会が、イベントへの参加など、限定的となっていること。

(3) 分析した原因の解決に向けた課題

- ・ さまざまな機会をとらえて、都市間の交流の機会を増やす。
- ・ うるま市との交流事業への継続のほか、学習旅行の誘致促進など、都市間交流の裾野を広げ、市民レベルでの交流を促進する。

Step 8 小施策と構成事業の関係性

1 小施策との結び付きが弱い、もしくは他の事業と重複していると考えられる事業

該当事業なし。

2 1で記載した事業についてその理由

3 1で記載した事業の今後の方向性（案）（縮小・廃止・統廃合等）

Step 9 Step7, 8を踏まえた改革改善案

- ・ 市民レベルの交流を促進するため、「いわて・盛岡デー・イン・沖縄」や「ちゅらしま大沖縄展」を開催するなど、機会をとらえて、文化、経済面など、様々な交流の機会を増やす。
- ・ うるま市や文京区、函館市など、既に交流のある都市との継続した交流事業を深めるとともに、北海道や宮城県などへの教育旅行の誘致促進や情報収集を進めるなど、都市間交流の裾野を広げ、市民レベルでの交流を促進する。